

2017年
新春座談会

菜の花・コスモス・そば・桜 富士山に似合う花は？ ～市民・団体・企業が支える「花いっぱいのおもてなし」～

当市では、さまざまな団体や企業の皆さんが花によるまちづくりの活動に地道に取り組んでいます。これらは多くの市民ボランティアの熱意で行われ、市民協働によるまちづくりの代表的な活動になっています。2020年に開催される東京オリンピックでは、観光客の増加が予想され、花いっぱいのおもてなしが期待されています。

花によるまちづくりに携わる方々に、活動の喜びや楽しみ、今後の展開などについて語り合ってもらいました。

座談会参加者

(順不同・敬称略)

● 林 松代

パノラマロードを花でいっぱいにする会副会長
みのり会会員

● 岡田 晃一

南駿農業協同組合副組合長・さくら部会会長
裾野駅西土地区画整理審議会会長
平松区神社総代会長

● 西山 ^{まさおみ} 征臣

(株)オートベル東部ブロック沼津第一事業所所長
パノラマロードを花でいっぱいにする会会員

● 高村 謙二

裾野市長



ボランティアで成り立つ
富士山と花のコラボレーション

市長▶林さん、まず、パノラマロードを花でいっぱいにする会の活動について教えてください。

林▶6月のコスモスの種まきに始まり、10月の菜の花の種まきで終わるのが1年間の活動です。種をまく前の耕運をはじめ、種をまいた後に草刈り、草取りを3回くらい行います。種まきイベントには、市民ボランティアの方も参加してくださり、総勢200人くらいになることもあります。去年は彼岸花も植えました。球根は会員が持ち寄ったものです。

市長▶私も作業のときには毎回参加しています。

林▶重要な働き手です。市長さんが来ると、みんなの士気も上がりますよね、西山さん。

西山▶そうですね。みんな「頑張ってますよ」ってアピールします。

市長▶西山さんは、種まきイベントを始めたときにはもう参加していましたよね。

西山▶そうです。この会が始まったのが平成22年で、私は平成24年からお手伝いさせてもらっています。会社で社会貢献をしようというのが始まりです。やはり地元の裾野市で何かできないかなと、いろいろと探しました。



菜の花の種まきイベント

農業委員会で“裾野さくら”と命名

市長▶裾野さくらはどうして誕生したのですか。

岡田▶私は平成25年に農業委員をやっていました。その頃、震災の風評被害などで山形県から富士市に移住してきた桜生産者の石井重久さんに、遊休農地となっていた公文名の畑を紹介しました。石井さんはいろんな桜の品種の登録を持っていますが、その中の一つの初夢吹雪と十月桜の交配種が、裾野では正月ごろ

に咲きました。その桜に名前をとということで“裾野さくら”を名付けました。

市長▶「裾野」という名前を織り込んでもらってありがたいですね。

林▶冬に咲く花というのは、本当に貴重ですよ。

岡田▶昨年7月に農協でさくら部会を設立しました。現在は5人で裾野さくらを生産しています。富士山と桜がマッチして良いのではないかと考えています。



裾野さくらを小柄沢公園に植樹

裾野市を代表する花に！
「あの」裾野さくらの“裾野”に……

岡田▶今年あたりから試験的に東京の大田市場へ出荷していきたいと思っています。何しろ木が少ないので、木を増やしながらかしずつです。

市長▶技術的には困難な面ってあるのですか。

岡田▶植えて、切って、^{せんてい}剪定して、花を市場に出します。残った木にちょっと肥料をあげれば、次の年にまた伸びてきます。木が育ってから出荷までの作業は難しくありませんが、挿し木をして木を増やす過程では100本中1～2本しか付きません。

林▶そうですね……。難しいのですね。

岡田▶少し技術が必要です。やる気のある農家を募集しています。JAなんすんにご相談ください。生産者を20人くらいに増やすことが目標です。

市長▶当市のキャッチフレーズに「あの、その、すその」があります。裾野さくらも一つの「あの」裾野になると嬉しいですね。

岡田▶いずれは商品開発に活用してほしいです。お酒などのラベルに富士山と裾野さくらを付けたり、「裾野さくら酒」のような名前を付けたりすることができます。



岡田さん

林・西山▶そうですね。

市長▶お菓子もできると良いですね。

岡田▶花を見るために人が集まるだけでなく、商品が生まれれば市の活性化につながります。

市長▶総合戦略の中で「東京から100km圏内の特別な田舎」というキャッチフレーズを付けました。特別な田舎には農業という切り口がとても大事だと思います。

花畑で結婚式？！ 洋装にも和装にもマッチ

市長▶平成27年からJAのそばの花まつり、ぐりんぱの天空のダリア祭り、コスモスまつりを連携させ、PRしました。それぞれの花畑の様子はどうか。

岡田▶去年のそばの花まつりは、雨のため途中で中止になってしまいました。平成27年は多くの方に来ていただきました。

林▶そばは食べるだけでなく、花も盛況ですよ。

岡田▶このようなイベントにたくさんの人に来ていただくことで市が活性化していくというのは大事です。

林▶パノラマ遊花の里の花畑には、口コミで観光バスがたくさん来しました。

市長▶コラボレーションするのはやはり良いですね。市営墓地で芝桜の植栽をやっています。各地点で花祭りみたいなものが増えていくと良いですよ。

林▶コスモス畑に来た方には「そばの花畑もありますよ」とか「ぐりんぱの花畑がきれいですよ」というふうに宣伝できますからね。



林さん

西山▶9月のコスモスまつりに行きました。見て、買って、食べて楽しいです。お客さんがたくさん来ていました。

市長▶本当に増えていますよね。

林▶市外の方が多いようですね。市民の方の認知度が低いのかなと思います。近所の方から「パノラマロードってどこ？」と聞かれたことがあります。

市長▶それはPRをもっと頑張らないといけませんね。

岡田▶そうですね。インターネットで情報を得られるので活用したいですね。

林▶遠くの方が「どこか良いところないかな」と探すのかもしれない。パノラマ遊花の里で、結婚式の前

撮りをしている方を見かけます。

市長▶花嫁衣装で撮影に来ている方がいますよね。

西山▶良いですね。私のときもぜひ撮りたいです(笑)。

市長▶撮影だけではなく、本番の結婚式をやってみたらどうでしょうか。

林▶パノラマロードの宣伝にもなります。

西山▶南伊豆町で菜の花畑結婚式をやっていますが、こちらには富士山が付いていますからね。

林▶でも、富士山がはずかしがり屋で姿を見せてくれないときが多くてね……。

市長▶そうですね。こればかりは仕方がないです。



西山さん

「花」の仲間を増やすことが課題

市長▶それぞれの活動で何が課題となっていますか。

林▶菜の花を桜の開花に合わせて、菜の花の種を早くまく必要があります。本当はもっと長くコスモスを見てほしいのですが、10月初めには刈り取らないといけません。せっかくきれいに咲いているのにかわいそうだと思うのですが……。菜の花の種まきを遅くして、コスモスを長く見ていただけるような、工夫がないかいつも思っています。

市長▶良い方法があれば良いですね。

林▶通常のコスモスの見頃の10月末ぐらいに、コスモスをパノラマ遊花の里に見に来る方がいますが、刈ってしまったので……。きれいに咲いたときのパネルを置いておきたいですね。

市長▶岡田さんは、菜の花から油をとっていますよね。

岡田▶そうですね。そばだけでは収益が少ないので、そばを収穫した後、菜の花の種をまいているそうです。でも、シカに食べられてしまうのが課題ということです。

市長▶そうですか……。

岡田▶菜種油は、化学的に抽出するのが一般的です。そば部会員が採取したときは、化学的な方法を使わない昔ながらの方法で絞ったそうです。

市長▶その油を1本いただきました。すごく良い油でした。



花を見るのも良いですが、それが自給できると良いですね。

岡田▶循環型にできることが理想ですね。

林▶コスモスも種を採って育てたいです。

西山▶そうですね。でも、早く刈ってしまうから難しいですね。

岡田▶裾野さくらに関しては、やはり生産者が少ないので増やすことが課題です。

市長▶課題解決に何が必要ですか。

林▶市民の方を含めパノラマ遊花の里を知らない方に知ってもらいたいですね。みんなに宣伝マンになってもらって、広めてもらえたら……。

岡田▶裾野さくらには報道に取り上げてもらい、知ってもらえたと思います。生産者が少ないので、耕作放棄地解消のためにも行政と連携できたらと思います。

市長▶農協とタイアップすることは大切ですね。

西山▶パノラマロードを花でいっぱいにする会の先進地視察で、昭和記念公園に行ってきた。公園として入場料をとっていることもあり、花の間隔がきれいで密度がありました。



林▶苗を植えたような感じでしたね。きれいでした。

西山▶公園内では、ボランティアの腕章をしている方が花壇などで作業をしていました。私たちと同じようにボランティアがある程度やっているのでしょうか。

林▶コスモスは専門の方がやっているそうです。

西山▶すごくきれいだと感じました。列がそろっていて、畑に入っても服が汚れませんでした。パノラマ遊花の里も、均等にきれいに見えるようにしたいです。

林▶昭和記念公園のコスモス畑の中には、散歩コースが通っていましたね。

西山▶そうですね。遊花の里でも富士山とのコラボレーションで良いアピールができそうですよね。

林▶電柱がなければ良いですね。

春夏秋冬とおして花が見られるまちに 市内の至る所に花を

市長▶冬もパノラマ遊花の里で花を見ることはできるのでしょうか。

林▶スイセンを植えてみましたが、あまり生育しませ

んでした。

岡田▶多分、裾野さくらは大丈夫だと思います。雪がかかった富士山と桜。それで春を迎えられたら良いですよ。

西山▶確かに。

岡田▶裾野さくらは11月下旬から咲き始めて、1月から2月ごろまで順次咲いていきます。

市長▶「裾野に桜を見に行くべえ」と来ていただきたいですね(笑)。

西山▶冬の花見ですか。良いですね。

岡田▶今のところ切り花ですが、将来的にはパノラマロードなどで見られるようにしたいですね。挿し木がどうやったら上手く付くか勉強して、何とか増やしていけたらと思います。市内にも広がっていく感じで。

市長▶小柄沢公園に植えた裾野さくらは、いつも気にして見えています。先日、トヨタ自動車(株)東富士研究所の開設50周年の式典で花の植栽の話になりました。

岡田▶そうですか。

市長▶研究所の入口に花を植えたそうです。世界中の方が来る場所なので、入口に裾野さくらを植えられたら、市をPRできて良いと勝手に思っていました。

岡田▶そういったこともちょっと考えています。

市長▶大いに期待します。

そこでしか見られない！特別なものに

市長▶その場所でしか見られないものをたくさん作ることができたら、良いですよ。

岡田▶コスモスでも「この富士山とコラボしたコスモスはここにしかありません」と言えば、見に来てくれます。

林▶朝パノラマ遊花の里へ行くと、カメラマンが多いです。

市長▶春は富士山と菜の花と桜、秋は富士山とコスモスという絵になりますからね。



岡田▶河津桜は苗を売っています。あちこちに広まったので、河津町に河津桜を見に行く人が少なくなっているそうです。

市長▶今や河津桜は全国で見られます。

岡田▶それに対し、豊田市小原町では、愛知県天然記念物の四季桜が各家庭や公園に植えられています。自分たちの地域から出さないよう管理されています。地域につなぎ止めておくことが重要だと思っています。

林▶そうですね。

岡田▶四季桜は、11月ごろに見頃を迎えます。紅葉と桜を同時に見ることができ、お客さんでにぎわっています。ここまで、20年かかったそうです。

林▶そうですか。

岡田▶やはり、そこでとどめておかないと。その点で裾野さくらは、増やすのが難しいですが、それが欠点であり、利点でもあると考えています。私は60歳を過ぎていますが、20年後、市内が裾野さくらでいっぱいになって、冬になると咲いている様子が見られると良いですね。

市長▶来て、見ていただいて、きれいだと感じていただくのと、商売っ気を出すことも必要ですよ。施設を建てることは難しいですが、テントを持ち寄っても良いです。

岡田▶豊田市小原町もそうです。テントを利用し、婦人会や商店街などの方もそこへ売りに来ています。

西山▶そうですか。弊社でも何かしら協力できると思います。



林▶「お手洗いがないと長居できない」と言われるので、お手洗いがほしいですね。

岡田▶そうですね。

市長▶それはしっかり考えたいと思っています。

駅前や史跡など街なかに花を 東京五輪に向け花のおもてなしを

岡田▶区画整理がだいぶ進んできています。ハナミズキを街路樹として植えてありますが、花があるとちょっとほっとしますよね。

市長▶そうですね。

岡田▶私は佐野原神社の総代もやっていますが、神社

の敷地の一部も区画整理事業用地として、整備しました。5・6年前なので裾野さくらはまだなく、河津桜を植えました。花の咲く頃には、子ども連れの方たちがお弁当を持って花見をしています。駅周辺や街中に人が寄れる場所にすることが必要だと思います。

市長▶心安らぐ空間を作ることは大切ですね。

林▶各地に拠点があると良いですね。この地区はここがきれい、あの地区はあそこが良いとか……。

岡田▶意外と遠くの方がわざわざ来てくれるので、きれいにしておくとう人が寄ってくると思いますよ。花を植えておくことも良いし、地域できれいにしておくことも1つの方法だと思います。

市長▶国内外から世界遺産富士山のもとを訪れることが予想されます。花のおもてなしのアイデアはありませんか。

林▶オリンピックは夏ですね。

岡田▶真夏はあまり花がありませんね。

林▶キバナコスモスでしたら、種を早くまければ早く咲きますね。そんなふうに工夫していく必要があります。

西山▶会社でまだアイデアは出ていませんが、ボランティアの活動は変わらず続けていきたいと思っています。

岡田▶農協としてはやはり「食」ですね。どんな食材を提供できるか考えます。

市長▶市内には世界遺産富士山の構成資産の須山浅間神社や深良用水、屏風岩、葛山城などがあります。ここにもエッセンスというか、ワンポイントとして花を入れると、つられて、人に来ていただける可能性が増えます。

岡田▶花があると景色も映えてくると思いますね。写真を撮ろうと思えば、景色だけではなく、花があるのもっと良くなってきます。

市長▶「まち・ひと・しごと」の「しごと」の部分は、皆さんが持っているノウハウや経験を生かしてチャレンジしていただきたいです。いろんな協力関係を築いて、まるっきり新しいものではなく、今あるものに磨きをかけて、外へ打って出ただけだと本当にありがたいと思います。

市民協働で街に花を。心にうるおいを

市長▶最後に皆さんの夢を教えてください。

西山▶個人的なことですが、愛の花を咲かせたいとおもいます(笑)。夢、こんなことで良いのですか。

市長▶いいですよ。幸せそうで良いじゃないですか。

西山▶引き続きパノラマロードを花でいっぱいにする会の活動に参加させてもらい、地域貢献したいと思います。

林▶四季を通して花を楽しめるパノラマ遊花の里にすることが夢です。私はみのり会の一員ですが、会員がだんだん高齢になってきています。活動を通して、みんなで元気を分け合い、いつまでも続けられるように

したいです。パノラマロードがより一層みんなに知られるようになってほしいです。

岡田▶裾野さくらが市内を埋め尽くすようになってもらえばなと思っています。何度も言いますが、そのためには生産者が増えることが必要で、それを一番願っています。

市長▶皆さんの夢の実現に向けて、行政としてできる限りサポートしなければならないと思っています。“裾野”というフィールドで活躍していただくことが一番良いことだと思っています。私の夢は、市民協働の花を咲かせることです。夢の実現のため、皆さんの活動を強力にサポートしていきたいと思っています。本年もよろしくお祈りします。



シビックプライドの向上をめざして

年頭あいさつ

裾野市長

高村 謙二

明けましておめでとうございます。輝かしい希望に満ちた新春を健やかにお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年12月3日に行われた第17回静岡県市町対抗駅伝競走大会におきまして、選手の皆さんが力を合わせてタスキをつなぎ、それまでの裾野市の最高タイムを2分以上も短縮して7位入賞を果たしたことは皆さんの記憶に新しいことと思います。私も市民の一人として感動し、大変に誇らしく感じました。

この駅伝大会のように、自分の住むまちが話題になること・活躍することは市民の大きな喜びとなります。今年は、これまでの地方創生の取り組みをさらに加速化することで裾野市の魅力や価値を高め、それを市民の皆さんのシビックプライド(まちへの愛着や誇り)につなげていく一年としたいと考えております。

地方創生など、全てのまちづくりの取り組みは、決して行政のみで成しうるものではありません。企業を含めた市民の皆さんと力を合わせて取り組んでいくという“市民協働”の視点が不可欠です。市民協働については、市内の“歴史・文化・名所旧跡”を核として地域づくりにつなげようという活動が盛り上がってきています。更に、裾野をフィールドとして、市民が自発的に企画・運営する活動も活発になってきており、“市民協働のまちづくり”に向けた機運の高まりを感じられるようになってきています。

これからも、市民の皆さんと行政が力を合わせ、こうした「まちづくりの主役は自分たちだ」という機運をさらに盛り上げながら、戦略的シティプロモーションを市内外に向けて展開し、裾野市の認知度をあげることにより、市民のシビックプライドの向上につながるよう取り組んでまいります。

結びに、今年一年、皆さんのご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。